

知っておきたい保険のはなし

猫劇場

～「女性の老後リスク」のおはなし～

じゅじゅ
寿寿

しっかり者の
お姉さん猫



はっば
わがまま、
気まぐれな
妹猫

知っておいたら役に立つ保険の知識。でも、難しくてよく分からない…。そんな保険のおはなしを、寿寿とはっばが分かりやすく解説します。

監修/アストのほけん



この前、ニュースで役職定年や定年制度そのものを廃止する企業が増えてるって言ってたわ。いまや60歳定年なんて古いし、年金受給も65歳がデフォルト。能力がある人は年齢にかかわらず給与水準を下げずに働けたり役職に就ける会社も増えているし、70歳年金受給開始も普通の時代になってきたものね。



まだまだ働けるし能力もやる気もある人が、年齢だけを理由に居なくなっちゃったら企業としてもダメージ大きいしね。世の中そういう感じになってきたの、良いと思う！年金もなんか不安な感じだし、お金の心配も減らせるし。



そうね。年齢を理由に第一線から退く時代は終わったの。ただし！これは、ずーっと外でお仕事してきた人の話。しかも、まだまだ男性が前提とされてるケースが多数。



え？女性は違うの…？



今のアラ還世代で、新卒からずーっと現役でお仕事してきた女性ってどのくらい居るかしら？



確かに…。バリキャリ女子よりも、結婚後はお家で家事をメインにしてきた主婦女子の方が、圧倒的に多そう。



その通り！
そして、今年50歳になる人が将来受け取る年金の見込み額の平均を見てみましょう。
男性：141,000円 女性：98,000円 男女で受け取る年金の額に違いが出て、女性はなんと10万円を切ってしまうの。



ええー!! 何よコレ、どういう事なわけ？ほんと失礼しちゃうじゃないの！



男女で年金額に差が出ちゃう最大の理由は「厚生年金」。国民年金は全員が払うけれど、厚生年金は会社員や公務員なんかのお勤めしてる人だけが払うの。よく「年金の二階部分」なんて言われてるわよね。この厚生年金は収入が多いほど納める保険料が増えて、その分年金の受取額も多くなるって仕組み。
つまり。男性より昇給や昇進の機会が少なくお給料が高くない場合が多い女性や、



いやいや…普通に考えて無理じゃない？おちおち病気にもなれないじゃないの。



そうよね。そもそも、年金制度が出来たのって今から60年以上前なの。60年前の1960年代の日本ってカラーテレビの放送が始まったころ。水道はまだすべての家庭には無かったころ。鉄腕アトムが放送開始されたころ。わかっちゃいるけどやめられない。あたり前田のクラッカーのころ。



…いやいや、いつよ！こんな昔に作られた制度、今の時代と合う訳くない？



その通りね。現代では当時と違って単身の女性もすごく増えたし。単身で働いていない65歳以上の1か月の支出は約15万円…女性の年金受取額は10万円以下なのに。



うわ、既に5万円足りないし。



まずは、年金をどう増やすか！
これを考えないといけないわよね。一番は、社会保険に加入できるお仕事に就いて続けること！今はパートさんやアルバイトさんも社会保険に入れるからね。他にも、働いている間はお給料でまかなうことにして年金受給を繰り下げる（繰り下げると月額アップ）のもアリね。スキルアップや資格取得で昇給や転職もアリ！



そっか！退職後や65歳以降にも働くの、今じゃ普通になってきているもんね。50代のうちから、チャレンジを続けとくのも大事かも！



年金、ありがたいことには変わりないけれど、現代においては、年金だけを頼りに生活ができない人も増えてくるの。今のうちから考えて対策をすることが大切ね。



あたちも考えなくっちゃ…みんなも、考えてみてにゃ！